

広報



No. 399 **最終号**

# しゅら

平成17年

3月号



ありがとう 市浦村

ふるさとを  
愛する心を  
いつまでも

市浦村立市浦中学校  
として最後の卒業式が  
3月12日に行なわれま  
した。

市浦村はなくなって  
もふるさとを想う気持  
ちは永遠に持ち続けて  
下さい。



## 新市へ期待するもの



すむ病院機能の再編成も急ぐべきだと思います。

また、わが村は次世代の花形産業を先取りする形で先般国の指定を受けましたが、これは農業の再生や地域経済活性化の起爆剤になりうるものであり、バイオマスコンビナートを建設し名実共に津軽半島の拠点として持続的発展をめざすべきであると思います。

わが村はまた、新市の中では唯一、海を有しており「十三湊漁港」の早期完成をめざしながら、日本海という海の恵みを最大限に生かす施策も進めて欲しいと思います。

いつも申しあげているように、少子高齢化、未曾有の財政危機、それに地方分権と時代は大きく様変わりしている中で、未来に繋がる道は過去の延長線上ではなく、市民一人ひとりが変える熱気と、変わる勇氣を持つことが大事であり、新市の市民の一体感を醸成しながら新しい街づくりには、「ヤツテマレ」の気力で頑張つて欲しいと思います。

平成十七年三月

市浦村長 高松隆三

島津則明

変わらず安心、安全で  
住み良いマチに

先人、先輩の方々のおかげさまにて、昭和三十年の合併以来今日まで五十年間、市浦村は順調に発展して参りました。

そして、今、合併により新「五所川原市」誕生の運びとなつていますが、変わらず安心、安全で住み良く、生きがいを感じる市となることを心から念願いたしますと共に、全てに更なる発展をするようみんなで努力して行きましょう。

中畑藤雄

満足感と一抹の寂しさ

村議の一員として最後の日を閉じた時、精一杯任務を全うしたという満足感と一抹の寂しさど懐かしさの念にかられた。

ふるさとの海、山、川はいかなる時代にも変わることはない。新市に対する不安、夢、希望それは計り知れないものがあります。残された在任特例期間、ふるさとの礎となるよう一生懸命頑張つて参ります。

初心に立ち返る

工藤武則

新市五所川原市住民の生活基

盤の安定のため新市の一次産業であります農林水産業の振興、更には商工業との振興を図り、恒久的に住み良い豊かなマチ作りの構築と福祉と文化の充実に努力する所存でございます。

初心に立ち返り頑張るつもりですので今後ともよろしくご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

相互の交流こそ活性化の始まり

濱田春士

私が樺太から引き揚げてきたのは昭和二十三年、今あの頃のことを想えば旧十三村もずいぶんさびれた村だった。出入り口には稲ワラのむしろが下がっていたり、家の中は薄暗く、屋根はかやぶきの家が多かった。男達は北海道のニシン場に出稼ぎしていた。その時昭和の大合併が行われ、十三橋ができた、人々の交流が生まれ、やがて国の経済の発展に伴い、田舎にもコンクリートの学校ができたり、車社会により道路舗装がされるようになった。

平成の時代を迎え、いままた、市町村合併をという。やらなくてもよいものならやりたくない。地方自治の改革に大きなとまどいを感じるが、少子高齢化の時代にあって健全な自治を推進す

るには、広域的な、そしてより高度な行政を必要とすることだと思ふ。幸いわが村も紆余曲折を経て、五所川原市、金木町、との合併が実現したが、これも住民のご理解と、村長の努力によるものと深く敬意を表するものであります。

相互の交流こそ活性化の始まりであり政治も経済も文化も、広く大きく英知を結集することによって生まれると思ふ。皆んなで力を合わせ新しい地域作り而努力しようではありませんか。

### 合併してよかったと思える市浦に

成田 長代

長い間、村民の皆様や先輩方のご指導により地方議員として頑張れたことに感謝申し上げます。

新五所川原市誕生を機会に合併してよかったと思える市浦村にして行きたいと考えております。

### 次代を担う若者に期待

葛西 敬太郎

合併を機に将来への希望を抱くことができ、次代を担う若い人が新しいものの見方で、新しい時代を築いていける五所川原市誕生を願っています。

### 住民本位の行政や政策を求めて

笹山 精喜

昭和三十年に、町村合併により市浦村が誕生してから五十年の間、多くの先輩達によって市浦村が受け継がれ建設されてきました。

いま、平成の大合併によって新五所川原市として発足することになりましたが、新しい発想によって地域の発展を図らねばなりません。特にさまざまなゴミ資源によって電気・肥料・熱などを作るバイオマスの発展に力を注ぎたいと思ふ。住民本位の行政や政策を求めて全力投球します。特に、旧市町村民



### 市浦型の農畜産振興を図る

相澤 治

が合併してよかったというマチ作りに頑張りたいと思ふ。

合併によって市浦村も五所川原市となります。都市部の住民も農村部の住民も同じ五所川原市民としてこれからは一体となり新しい地域づくりを進めていくこととなります。しかし市浦には市浦型の特性があり、特に広い山間部が牧場として活用されています。きびしい農業の中でも畜産振興はまだまだ伸びる余地が有ると思ふ。

また、ハウスによる畑作振興についても、トマト、アスパラなど適地、適作によって、農産所得の向上が図られなければならないと思ふ。先代から汗水流して守り続けて来たその財産が無にならないように努力していきたいです。

### 在任期間を全うしたい

三和 均

合併と同時に市浦村議会議員の任期が切れるが、在任特例を受けて二十二ヶ月の任期を全うしたいと思ふ。これまで議員として育ててもらった市浦村の皆様や先輩方に感謝を申し上げます。合併してよかったと思

われる市浦村になればよいと思ふ。五所川原市の誕生をお祝いし発展をお祈り申し上げます。

### 地域の意見を反映させる

三和 孝治

わが村と五所川原市、金木町が合併して三月二十八日五所川原市となります。五所川原市議会議員として地域の意見を反映させるため頑張る所存でありますのでよろしくお願ひ申し上げます。

### 寂しさを乗り越え責任のあるマチづくり

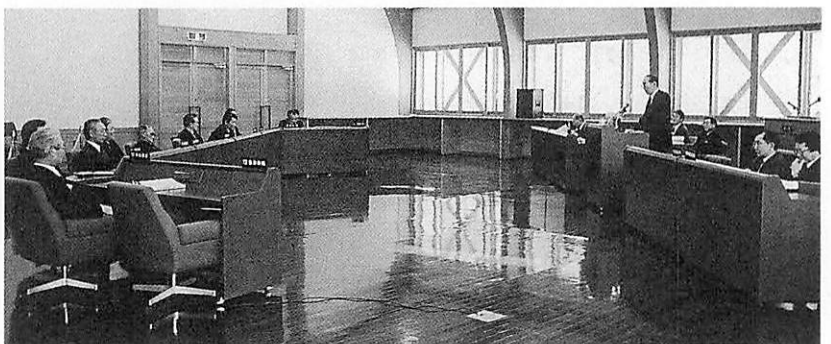
木村 博

市浦村もこの三月二十八日から新五所川原市として生まれ変わります。今までの市浦村としての一抹の寂しさもあります。が、新しい時代に向けて責任のあるマチ作りをして行きたいと思ふ。合併して良かったと思ふ。合併して良かったと思ふ。合併して良かったと思ふ。

### 地域住民と共にある議員

工藤 誠一郎

五所川原市と金木町と市浦村の合併が、いよいよ四月から新市として発足する。市浦村は飛び地合併ということから、ある



意味では大きな大きなハンデを負う合併でもある。だが、市浦村には海と山と湖と歴史と、それに係る産業がある。新五所川原市の中の過疎地ではなく、住民の結束の中から新しい生気のある地域作りを見出して行かなければならない。その意味からも議員としての立場はきわめて大きな責任があると思ふので、地域住民と共にあるということ念頭に努力したい。

# もや山を背に 木の香りも心地よく

## もや会館竣工

三月十日、脇元地区に交流施設「もや会館」が建設され竣工式が行なわれ、関係者約六十人が出席しました。高松村長が「脇元公民館は老朽化がひどく



住民から早く新築をとの要望が強かったが、補助事業に乗ることができなかった。合併前になんとかしたいと思い直接掛け合った結果特別の配慮にいたった。完成した建物をみて大変喜ばしく思います。今後いろいろな活動に利用していただきたいとあいさつしました。

ホールではゲートボールもでき、和室の会議室、調理室も完備されており、女性の生きがい活動、世代間交流、各団体の交流等、多目的活動に対応できるような施設です。また、ヒバの

# 消費者に、より鮮度の高いものを

## 十三地区荷捌施設増築工事完成式

十三漁協に併設されている荷捌き施設の増設工事が完了し三月十日竣工式が行なわれました。高松村長が「十三湖のじみは全国的なブランドとして知られています。入札制度が始まって

から三年になりますが、荷捌き場が狭く、また、より新鮮なものを消費者に届けたいという強い要望から建設にこぎつけるこ

とができました。今後ジジミの販路拡大に繋げてほしい」とあいさつしました。

工藤組合長が「この施設は空調設備が整い、ジジミを安全保管し、安心して消費者に届けるため建設されました。財政のきびしい中、建設していただきありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。

香りも心地よく、訪れた人やすらぎを与えてくれることでしょう。景色もよく、会館の後ろにはもや山がそびえ、前面には日本海が雄大に広がっています。皆さんも一度訪れてみて下さい。

### 斎藤恵美子さん

(脇元婦人会長)



地域にこんなりっぱな施設ができてうれしです。これから婦人会活動として料理教室、手芸教室等幅広く活動していきたいと思っています。

### 葛西チヨエさん

(さざなみ老人クラブ会長)



大変うれしです。いままで待ったもの。今度は老人クラブで大いに活用したいと思っています。

### 榎引 由雄さん

(はまなす老人クラブ会長)



# ゆとりある農業経営が認められ

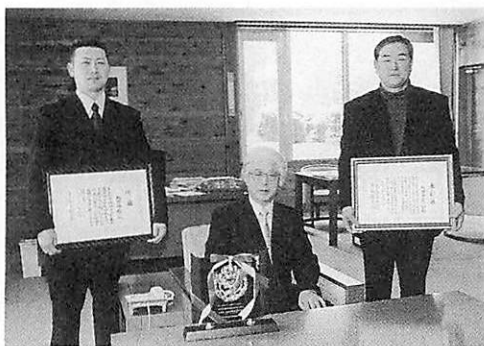
二十三回農業経営研究協会賞に水稲部門で「ゆとりある稲作経営」を確立した秋田谷長一郎さん(56)が選ばれ、青森市のラ・プラス青い森で表彰伝達式が行なわれました。二月八日、その報告に村長室を訪れました。秋田谷さんは、冷涼な気象条件と十三湖周辺の低湿地という悪

条件の下、規模拡大を積極的に実施し、高い労働生産性を実現している。社会経済、農政を取り巻く環境の変化に対応しながら「ゆとりある稲作経営」をめざし、農地保有合理化事業、有志制度の活用、労働力に応じた経営規模の拡大と労働平準化による低コスト生産に努めていることが認められ受章にいたったものです。秋田谷さんはこれからも一層の拡大意欲を示しています。さらなる飛躍を誓っています。

雨降っても、雪降ってもゲートボールができるというので嬉しいのです。大いに利用したいと思います。



テープカットする関係者



秋田谷長一郎さん(右) 左は長男の和智さん

# 市浦村をバイオマスの里に



市浦村では十七年度国の指定を受け、バイオマスタウン構想に本格的に取り組むことになりました。

市浦村「バイオマスタウン構想」講演会が二月七日エルクム文化センター2Fホールで行われ約二百人が参加しました。高松村長のあいさつで「村内の製材産廃を活用し、近代技術により、熱、電気、燃料を生産し公共施設、冬の農業等に利用

し、エネルギーの地産地消を図りたい。また、高品質有機堆肥開発による農業振興、特に冬の農業やシジミの環境保全などの確立をめざしたい」とあいさつしました。

続く講演では、シビルコンサルタンツ代表取締役の阿部慎一郎氏が「市浦村におけるバイオマスタウン構想について」弘前大学教授の渋谷長生氏が「市浦有機ブランドの開発について」慶応義塾大学大学院助教授の金谷年伸氏が「青森県におけるバイオマス利活用の将来性について」の講演がありました。

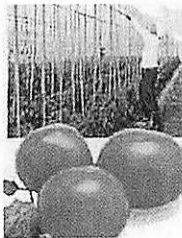
## 地域の現状

### 経済的特色

基幹産業は、製材業(8億円)、シジミ(10億円)、トマト(1.5億円)、米(3.3億円)、畜産(6,000万円)、漁業(2,600万円)などがある。シジミは、東京マイコープを通じて首都圏にも供給している。

### 市浦トマト

- 京浜地区の平成3年産夏秋トマト査定会で品質が1位に。
- 夏秋トマト「桃太郎」は、市浦ブランドを確立している。



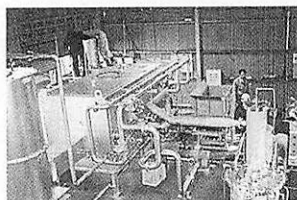
### ヤマト蛭(しじみ)

- 十三湖で採れる蛭は、古くから市浦の人々の暮らしを支え、多くの人に愛されてきた。グリコーゲンやタウリンを多量に含み、肝臓病やボケにも良。年間2,600トンの水揚げを誇っており、青森県内はもちろん、首都圏にも供給されている。

### 地域のバイオマス利活用方法

#### ①タラソテラピー施設でのガス化発電プラントによる、電力、熱供給事業

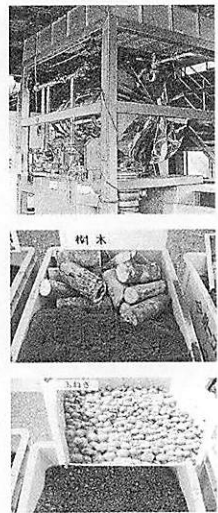
- 製材残渣による、ガス化発電。(電力供給)
- タラソテラピー施設への熱供給。(発電プラントの廃熱利用) 余剰廃熱を利用した、「海水ミネラル」や「炭」の生産。(燃料&土壌改良) 安価な炭生産が実現すれば、土壌改良剤として、より高品質の農業生産が期待される。余剰廃熱を利用した「冬の農業」(アスパラガスや花)の開発。(広大な隣接敷地活用)
- 今後発生が予想される間伐材処理の受け皿とする。(実証区を設け、効果を検討したい)



バイオマスガス化装置(農林バイオマス3号)

- 休耕地での質源作物を実験的に栽培し、その利活用効果を検討したい。(ソルガムなど)
- これらにより、地域エネルギーの地産地消を目指す。
- ②ガス化発電プラントにおける前処理粉碎装置(MMCS)を活用した、完熟有機堆肥の開発
- 安全&安心な有機農業のための堆肥・炭利用を研究開発し、確実な展開を図る。農業残渣や家畜糞尿、流木やシジミ貝殻(アルカリ調整)を利活用したい。
- 岩木川水系で発生する流木やヘドロは、毎年問題となり、シジミの環境を悪化させている。これらの処理の受け皿として、堆肥化処理などが考えられる。国土交通省と共に検討したい。
- 湖沼や海岸ごみ(雑草や流木)についても、その受け皿として、清掃活動を支援したい。

前処理粉碎装置【MMCS】



### 期待される効果

#### ①財政コストの削減

- 先進的なエネルギー転換システムの導入により、村温浴施設を初めとする、公共施設でのバイオマス電力利用により、年間5,000万円程度の経費削減が期待される。

・送電端発電量	200万kw/年(2,500万円)
・隣接地での廃熱利用	1,300万円
・炭燃料(7,000kcal/t)	580t/年(灯油換算460kℓ = 2,000万円)

・CO<sub>2</sub>削減・吸収 10,000t以上

#### ②「安全・安心・有機の里」の実現

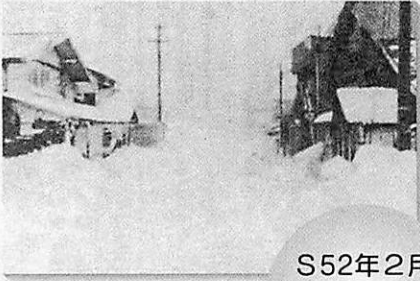
#### ③「温暖化対防止効果」

#### ④「新産業創出」

#### ⑤「地域の活性化」

#### ⑥「市浦シジミの地域環境保全を中心に、自然循環維持機能」を増進する。

# 記憶に残る一場面



S52年2月  
**豪雪**



S46年  
相内地区の  
虫送り



S46年  
国定公園  
スタート



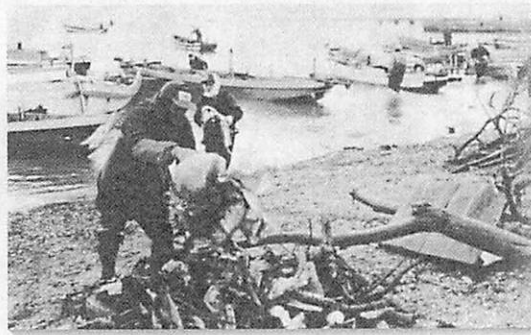
S50年10月  
特選牛に  
輝く!!



S50年11月  
おらほの村にも  
バスがきた  
(太田地区)



S50年11月  
十三湖  
クリーン  
作戦



## 歴代広報担当者 思い出を語る

県広報コンクール準特選  
広報は私の原点

桑野 邦夫

広報には通算十三年間携わった。広報は楽しく制作することができたやりのある楽しい仕事だった。一部制作することに満足感を味わった。当時、次から次へと新しい事業が展開され、安東文化のふるさと「しづら」を全国的に売り出し県内外の市町村から注目を浴びた時代であった。広報マンにとっては、取材に事欠かない良い次代であり、兼務と言う厳しさはあったが今となっては懐かしい。広報コンクールでは準特選に入賞し、神戸市で開催された全国広報大会に夫婦揃って参加させていただいたのが、忘れられない思い出となっています。広報は私の原点です。▽昭和五十八年九月号が県広報コンクールで準特選

## 完成時の充実感

白川 敏文

取材に応じてくれた村民の皆様には感謝しております。完成までは日々苦勞の連続でした。唯一完成の時は充実感を味わうことができました。



S58年  
金木高校相内分校野球部  
全国高校定通制軟式  
野球大会ベスト8入り



S58年 日本海中部地震



H5年  
安東文化顕彰  
シンボル塔  
御用材運行祭



H3年5月  
高松村制  
スタート



H5年12月  
世代間  
交流

歴代広報担当者

- 佐藤 勝一 1号～4号  
昭和32年8月～35年8月(3年)
- 葛西安十郎 5号～147号  
昭和39年1月～51年3月(12年)
- 桑野 邦夫 148号～238号  
平成51年4月～元年3月(13年)
- 白川 敏文 239号～260号  
平成元年4月～3年6月(2年)
- 丁子谷 充 261号～304号  
平成3年7月～7年6月(4年)
- 有馬 敦 305号～312号  
平成7年7月～8年6月(1年)
- 三上 洋 313号～341号  
平成8年7月～11年3月(3年)
- 三和不二義 342号～379号  
平成11年4月～15年3月(4年)
- 佐藤みど子 380号～399号  
平成15年4月～17年3月(2年)

H13年4月  
市浦小学校校  
歌を岡田さん  
からの指導



取材・編集に追われた日々

有馬 敦

当時はイベントも多く、取材・編集に追われる日々であった。一年間の担当だったが取材に応じてくれた方々に感謝します。

たくさんのお会いが財産

丁子谷 充

役場に入って間もなく広報担当となり沢山の人の出会いは今でも貴重な財産になっています。

姫神の星吉昭さんを取材したことや、NHK大河ドラマ「炎立つ」の取材などが印象に残っています。

汗と涙の1155日々

三上 洋

太田虫送りの取材に出かけ荒馬が田に落ちる所を取材しようとして自分が田に落ちてしまった。それ以来、毎回落ちることになってしまった。担当期間中はつらい日々で汗と涙の記憶しかない。

締め切りに追われた日々

三和不二義

締め切りに追われた日々が今となっては懐かしい。取材に快く応じてくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。



市町村合併に伴いこの号で広報しゅうらも最終号になるという事ですが、元氣海通信もひとつずつ最終話となります。今まで拙い文章にお付合い頂き皆様ありがとうございました。そして編集担当の佐藤さんいつも原稿おそくなって申し訳ありませんでした。とはいっても海遊館が終わるわけではないのでこれから皆様には違った形で、情報発信をしていければと思います。ということで最終回の今回は現

在の日本におけるタラソ事情と今後の展望をご紹介したいと思

います。  
 さかのぼる事四年前、二〇〇〇年の十一月に海遊館はオープンしました。日本初の公共のタラソテラピーセンターとして、ある意味日本におけるタラソの普及を大きく左右する施設として日本中の温浴施設業界の注目を受けオープンしました。事実、今まで四年間で主なものだけでも延べ百件を超える市町村を始めとする各団体の視察がありました。タラソテラピーを活用して地域に密着した健康づくりを実践し、尚且つ効果が出ている施設というのは国内はもとより世界中を探しても数少ないのが現状です。そんな先進的なタラソテラピーのモデルハウスがしゅうらんど海遊館なのです。それは今現在でも変わりません。そして海遊館オープン以来、愛知県蒲郡市の「テルムマラン・ラグーナ」、熊本県上天草市の



テルムマラン・ラグーナ



ユニタ・タラソテラピーハウス



スパ・タラソ天草



テルムマラン タラソ おきのえらぶ

「スパ・タラソ天草」、クリニクとタラソが融合した福岡県博多市の「ユニタ・タラソテラピーハウス」など数々のタラソ施設がオープンしました。更にこの四月には鹿児島県の沖永良部島に「テルムマラン タラソ おきのえらぶ」のオープンも控えています。あと二、三年のうちに更にいくつかのタラソ施設のオープンも計画されており今後タラソテラピーの認知はますます向上します。つい先日、東京でアクア&スパ・シンポジウムが開催されフランス大使館主催のセミナーの懇親会では高松村長がスピーチするなどタラソの本場フランスからの注目も受けているのも事実です。

この様に多くの注目を受けているタラソテラピー業界。ちょっと大げさかもしれませんが、海遊館は世界に誇れる施設なんだ！と、思っ利用してみてください。いつも利用されている方も、そうでない方も、また新鮮な気分



これからも楽しく健康づくり！

な気分

しゅうらんど海遊館

支配人 平野 竜矢

## 4月のラッキーマンデー

毎週月曜日はラッキーマンデー

- 4月 4日 子ども入館料半額 & 運動プログラム無料開放
- 11日 全プラスワントリートメント30%OFF
- 18日 アルゴパック半額 通常3,000円 ⇒ 1,500円
- 25日 バンジェ半額 通常1,500円 ⇒ 750円

海遊館は  
毎週月曜日が  
おトク！



# 地域づくりは人づくり 人づくりは生涯学習

教育委員会だより No.34

## 一人ひとりが元気!!

### 130人が参加して生涯学習推進大会

平成十七年二月二十日(日)「地域づくりは人づくり、人づくりは生涯学習」をキーワードに、市浦村村民憲章の具現化を目指した第八回市浦村生涯学習推進大会が村民約百三十名が参加して開かれました。

開会セレモニーでは、参加者

全員で村民憲章を唱和した後、平成十六年市浦村スポーツ賞の授与が行われ、賞状と記念品を手に入れました。その後、丁子谷悟教育委員長が主催者を代表してあいさつし、山田収入役がお祝いの言葉を述べました。

続いて、津軽三味線奏者村上暁さんの演奏を二十分聞き入った後で全体会議に入り、前半の部では、津軽こみせ(株)代表取締役の木下啓一氏による講演「そこに「こみせ」があった!動き



▶スポーツ功労賞受賞者

前列左から浜田さん、秋田谷(寛)さん、三和さん、山田さん、後列左から佐藤さん、成田さん、藤田さん、秋田谷(兼)さん

だしたまちづくり」が行われました。木下氏によると「こみせを活かすために自分たちは何をすべきか」を考えた時、結果的にまちづくりに参画していたということが話されました。

後半の部では、体験発表を一つ、実践発表を二つ行いました。発表者は、市浦分校三年の藤田早紀さんと読書サークル浜千鳥の会の代表の青山久子さん、地域見回り隊の成田武司さんの三名の方が行いました。

はじめに、藤田早紀さんが「市浦分校生としての誇り」と題して、自分の気持ちを素直に、そしてストレートに来場者へ伝えてくれました。会場からは、共感する声が続出した。発表で表でした。

次に、青山久子さんからは、昨年春に結成したばかりの読書サークルの取り組みについて、



津軽三味線奏者：村上 暁氏



講師：木下隆一氏

ゼロから立ち上げての苦労話ややっていて楽しいことなどを発表してもらいました。

最後に、成田武司さんからは、見まわり隊を結成した経緯やその取り組みについて発表してもらいました。その中で成田さん自身が地域の仕掛け人になって子ども達を取り巻く環境を整えていきたいと熱く語ってくれました。

最後に、木下靖英西北教育事務所社会教育主事の講評で印象的だった言葉は「市町村合併は、1+1が1になるのではなく、1+1で3以上になる元気のある地域でなければいけない。そのためにも地域住民一人ひとりが元気である必要がある。」と述べられ「一人ひとりが元気」をキーワードとした当村としては最後の生涯学習推進大会を閉じました。



事例発表者：左から藤田さん、青山さん、成田さん

### 平成十六年市浦村スポーツ賞

十六年に表彰された方は、全部で十名。受賞者、賞等は、次の通り。(以下、敬称略)

#### 「スポーツ賞」

□越谷めぐみ(十三)

五所川原第一高等学校

・高校総体少林寺拳法競技にて、規定団体演武の部において多数の男子チームを抜き優勝に輝いたチームの一員。

#### 「スポーツ功労賞」

三和悦穂(相内)、工藤広直(太田)、山田博伸(脇元)、秋田谷富男(十三)、浜田隆樹(十三)、秋田谷兼仁(相内)、成田武司(相内)、藤田範道(磯松)、佐藤勝幸(相内)以上九名は、長きに渡り市浦村体育指導委員を務め、スポーツの普及及び指導をし、生涯スポーツの振興に寄与した。

# 市浦村最後の卒業式

市浦村立としては  
最後の卒業式・卒園式が行われました。

## 中学校

3/12



あんなこと、こんなことがありました



希望を胸に退場



今まで支えてくれてありがとう

## アトム保育園

3/18



お料理おいしかったです



こそつえんおめでとう

## 市浦分校

3/3



3年間の思い出が胸をよぎります



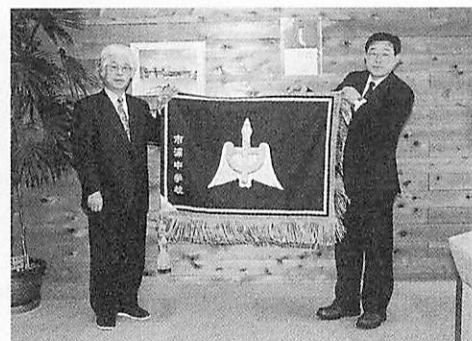
記念撮影

## 色鮮やかに蘇った校旗

中学校校旗寄贈

市浦中学校創立以来使用してきた校旗が、色褪せてきたため、市浦中学校後援会と村の合同出資により寄贈しました。

この校旗は後援会で十八万八千円、村で二十万円を負担しました。この日訪れた後援会長の安保静雄さんが、市浦中学校の高杉校長に校旗を手渡しました。高杉校長は「新しい校旗で卒業式を迎える事ができてうれしいです」と感謝の言葉を述べました。



「うれしいです」と語る高杉校長(右)

## 温かいご支援に感謝申し上げます

ドイツでの心臓移植を実現するため募金活動をしていた山田修一さんを救う会より下記のとおり募金実績報告をいたします。

- ◆募金期間 平成16年10月末～平成17年2月末現在
- 《目標 6,000万円》
- ・全国募金実績 19,418,224円
- うち青森県支部の募金実績 1,982,141円
- 市浦村募金実績 600,000円

足りない分の金額は、トリオ・ジャパン「国際移植者組織」等から一時借り入れして3月中旬頃に、ドイツに渡航する予定になっています。

## おめでとう 第136回全国商工会珠算検定試験

- ◆実施日 平成17年2月20日(日)
- ◆所属珠算学院 市浦珠算学院 (代表：武田美保子)
- ◆合格級及び氏名 3級 成田 佳史 (市浦小学校)
- 6級 藤田 芽衣 (市浦小学校)
- 以上2名

# 国民年金 コーナー

## ご存知ですか？

# 国民年金

四月から国民年金保険料が変わります

### ◆国民年金保険料

(平成十七年四月～十八年三月)

・一ヶ月分 一三、五八〇円  
・一年分 一六二、九六〇円

当月振替えにより国民年金保険料が割引されます。国民年金保険料の口座振替は、指定された口座から自動的に保険料が引き落とされますので、納め忘れを防ぎ、さらに納付する時間が省けるので便利で安心です。

その便利で安心な口座振替にさらにお得さが加わります。通常の振替方法をしたときは保険料の納付期限(翌月末日)に

振替えられています。四月からは、当月分の保険料を当月振替すると、割引されます。

国民年金保険料の納付は断然お得な口座振替をお勧めします。詳しくは、お近くの社会保険事務所までお問い合わせ下さい。

## 年金制度のしくみ

### 年金制度は、誤解がいっぱい

現在の未納・未加入者の実態を調べると、所得面では納付者と大きな差はありません。したがって、未納・未加入者は、公的年金に対する理解が得られていないと考えられます。

## Column

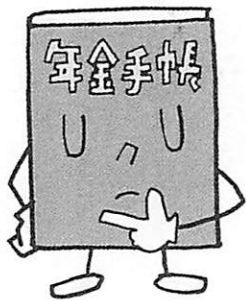
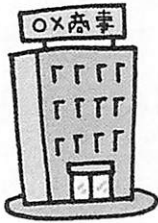
### 多様化する就業形態とともに

近年、終身雇用が崩れつつあり、転職・独立など就業形態も様々となりました。それに伴い、今まで企業側が行っていた年金に関する諸手続を個人で行う機会が増えています。

もう「厚生年金保険に加入しているから」「会社に入っているから」などと、他人に依存している時代ではありません。

うっかり届け出を忘れて、未納にしていると、せっかく納めてきた保険料がムダになってしまいます。そればかりか、将来受け取る年金「老齢年金」が減額されたり、「障害年金」や「遺族年金」を受給できなくなる場合もあります。

今後は、各個人でも年金に関心を持ち、積極的に年金制度を理解していく必要があるといえます。



合、生計を助ける「障害年金」や一家の大黒柱が亡くなった場合、家族をささえる「遺族年金」の分も含まれているのです。自分のためだけでなく、家族のための年金でもあるのですよ。

### 年金は「老後」だけではない！

年金は老後のことだけと勘違いしていませんか。保険料のなかには、障害の状態になった場合、生計を助ける「障害年金」や一家の大黒柱が亡くなった場合、家族をささえる「遺族年金」の分も含まれているのです。自分のためだけでなく、家族のための年金でもあるのですよ。

# 消防・ネットワーク

火事と救急・救助は一一九番

## ハローページのレッド(注意)

各家庭に配布されるハローページの最初の見開きにレッドページがあるのをご存知ですか？これは、NITの協力で全国の地域ごとに編集されており、災害が起きた場合、まず何をしたらいいのか、日頃どんな事を心掛けておけば慌てずスムーズに避難ができるのかといった、防災情報を掲載しています。

赤いページは、災害の時に開くページ。いざという時は、破ってポケットに、と覚えておいてください。

今年で津軽北部広域事務組合として十回目の参加でしたが、大雪で十分な練習ができずに、記録が伸びませんでした。

強靱な気力と体力の練成と、職員の親睦を目的に、当組合からも有志者が参加し、タスキを繋ぎました。

今後は五所川原地区消防事務組合となりませんが、同じ消防職員として知力、体力、気力の更なる向上を目指し、走り続けたいと思います。

### 目標は日本一早い消防隊

平成十七年三月十二日、東京都にある皇居壕周回歩道コースにおいて「第十六回消防本部対抗駅伝競争大会」が開催されました。

北は青森、南は沖縄まで全国百以上の消防本部が参加し健脚を競いました。

競技は、皇居壕周回歩道コースの一周四・九kmを、一人一周、五区に分かれてタスキを繋ぎま



### 出稼者各届出変更について

新市からの出稼者各届出の取扱いは次のとおりとなります

◆**手帳発行** 新規・更新 手数料 二〇〇円(五所川原市役所・金木総合支所でも可)

◆**出稼健康診断** 四月一日からは検査票が必要となります。(手帳のみでは受診できません。)\*健康診断をされる方は、出稼手帳発行または、更新時に健康診断を受診することを伝え、検査票をもらって下さい。(病院の窓口へ出稼手帳と検査票を提出して下さい。)健康診断は無料

※出稼手帳と検査票を持参すれば市浦診療所以外での受診も可。ただし、新市内で北五医師会に加入している医療機関に限られません。

◆**失業台帳取扱い** 変更なし(失業の手続きは市浦総合支所で行って下さい)

◆**広報等送付** 個人宛ではなく事業所単位での送付となります。

▼**お問い合わせ** 市浦総合支所窓口まで。

**シルバー人材センターからのお知らせ**

◆**新入会員を募集します**

シルバー人材センターは、就職は望めないが働く機会を得たい、何らかの収入を得たいという健康で働く意欲のある高齢者の願いに

応えるための団体で、地域の発展に寄与することを目的として運営されています。

### 高齢者の要がな健康と能力を測りたい

市浦村の皆様方で原則六十才以上の健康で働く意欲のある方の新会員を心から歓迎します。

希望される方は事務局まで  
 ・年会費 三〇〇円  
 ・友の会費 五〇〇円

▼**お問い合わせ**  
 社団法人 五所川原市  
 シルバー人材センター  
 五所川原市岩木町一丁目二番地  
 ☎三四一八八四〇(内線三六〇)

**三月二十八日から市浦総合支所窓口での各種手続きにご注意ください**

戸籍の届出、住所に関する届出、各種証明書の申請などは、本庁と各総合支所の窓口で同じ方法になります。(申請書に記入していただいています。本人が印鑑も持ち下さい。)本人になりすましての偽装申請や届出を防止するために、届出人が本人であることを確認する場合がありますので、運転免許証やパスポート等(本人の写真が貼付されたもの)をお持ちください。また、代理人の場合は委任する旨の書面と印鑑が必要になります。印鑑登録証(カード)は、新しい印鑑登録証(カード)と交換になります。印鑑証明書が必要になります。

なったときに、市浦村の方は市浦総合支所の窓口で交換して下さい。新規の印鑑登録や改印などで、本人を確認出来る書類がない場合は、印鑑登録をしていただく方に保証人になっていただきます。また、保証人がない場合は、郵送で本人に確認することになりますので時間がかかります。

火葬で露草斎苑を使用される場合は、埋火葬の許可申請時に使用料を前金で納めていただくこととなります。

詳しいことは市浦総合支所窓口係にお問い合わせください。また、その他については五所川原市ガイドブックをご覧ください。

◆**エイジレス・ライフ実践者社会参加活動事例の募集**

内閣府ではエイジレス・ライフ(年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由で生き生きとした生活を送る)を実践している高齢者、社会参加活動を積極的にしている高齢者のグループを広く紹介し、既に高齢者社会を迎え、又はこれから迎えようとする世代の高齢期における生活の参考としてもらうために、活動事例の募集を行っています。

◆**募集する活動事例**

①エイジレス・ライフ実践者  
 \*左記のいずれかを実践している概ね六十五歳以上の方。  
 ○過去に培った知識や経験を活か

し、高齢期の生活で社会に還元し活躍している。  
 ○中高年から一念発起して、物事を成しとげた。  
 ○壮年期において達成した地位や対面などにとらわれることなく、高齢期を新しい価値観で生き生きと生活している。

○自らの努力、習練等により、優れた体力・気力等を維持し活躍している。

○地域社会のなかで、地域住民のリーダーやコーディネーター的な役割を發揮し、生き生きと生活している。

②社会参加活動  
 積極的な活動を通じ、社会とのかわりを持ち、生き生きと充実した生活を送っている概ね六十五歳以上の方が中心となって構成しているグループ等(十人以上)

【活動分野】

●趣味、教育・文化、福祉・保健、健康・スポーツ、生活環境改善、地域行事・自治会、生産・就業(起業を含む)、安全管理・その他

◆**推薦方法** 役場住民福祉課に○月○日○までに推薦する。

◆**紹介事例の決定等** 推薦のあった事例について、選考委員会に意見を聴取し、内閣官房長官が決定します。決定した事例については、書状と記念の楯を授与します。

◆**紹介方法** 決定した事例については、国民に広報を行います。また、「心豊かな長寿社会を考

える国民の集い」において事例の紹介を行います。

▼**お問い合わせ**  
 市浦総合支所福祉係  
 ☎六二二二二二(内線七二)

### 福祉タクシー事業

新市では、在宅の重度心身障害者で申請した方に対して福祉タクシーの利用券を交付しています。

◆**受付期間** 四月一日(木)から

◆**対象者** 市内に居住する在宅の重度心身障害者(身体障害者手帳一級及び愛護手帳「A」の方、ただし自動車税(軽自動車税)の減免申請している方はのぞく。

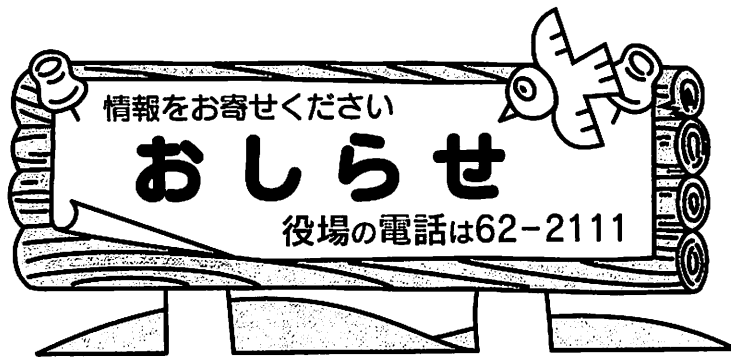
◆**持参する物** 身体障害者手帳または愛護手帳、印鑑

◆**申請・問い合わせ** 福祉係

**県内の交通事故概況** 青森県交通対策協議会

発生	2月中		年累計		死者の状況	飲酒運転による死者
	発生	死者	発生	死者		
783件(+86)	6人(+1)	964人(+103)	1,633件(+77)	11人(-1)	2人(+1)	2人(+1)
					高年齢者の死者 ~65歳以上の人~	2人(-4)
					シートベルト	7人(+2)
					自動車乗車中の死者	3人(-1)
					非着用死者	1人(-3)
					着用していれば助かったと思われる人	

\* ( )内は前年。累計は1月から。速報値のため後日変更することがあります。



市浦村の人口と世帯数 平成17.3.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,147	1,145	409
桂川	52	52	20
太田	233	234	83
脇元	487	486	201
磯松	281	280	111
十三	775	775	266
計	2,975	2,972	1,090

観光宿泊施設の予約について

今年より村内の観光宿泊施設予約は、全て中の島ブリッジパークの活性化センターで受付を行います。

受付開始と料金等は次のようになっています。

- ◆予約開始 4月1日 午前8時30分より
- ◆予約先 市浦地区活性化センター ☎62-2775

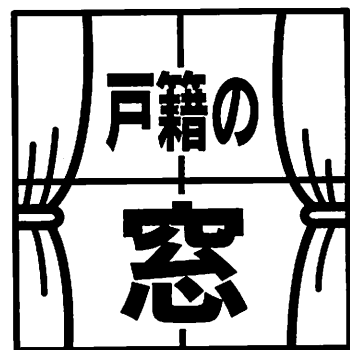
中の島ブリッジパーク		
ケビンハウス (利用期間) 4月1日～ 10月31日	A棟(6人用)	12,000円
	B棟(4人用)	10,000円
利用定員より1名超えるごとに1,200円加算となります。(幼児除く)		

脇元海辺ふれあいゾーン		
バンガロー (利用期間) 4月1日～ 9月30日	1棟宿泊	7,000円
	1棟日中 10:30～15:30	5,000円
貸出し寝具		500円/1組 (備付け4組以外)
錬御殿 (利用期間) 通年	研修室 宿泊1名	1,000円/時間 3,000円
	クラス会や法事等にもご利用できます。	

国民健康保険証及び老人保健医療受給者証等について

現在使用している国民健康保険証、国民健康保険高齢受給者証、老人保健医療受給者証は平成十七年三月二十八日の市町村合併により有効期限が平成十七年三月三十一日までとなります。  
四月一日からは新しい保険証で病院受診することになりますので、よろしく願います。  
なお、新しい保険証は、三月二十九日～三月三十一日の間に全戸郵送となる予定です。

お受け取りにならなかった世帯の保険証は、四月七日まで市浦郵便局で保管し、四月八日から市浦村役場(市浦総合支所)に戻ります。  
●長期間、居住地を離れ単身で保険証を使用する方  
新しい保険証が届いてから市浦村役場(市浦総合支所)で申請して下さい。  
☆出稼ぎの方より親元の保険証、印鑑、出稼ぎ先の会社名と住所  
☆高校生の方より親元の保険証、印鑑、下宿先の住所  
☆修学のため住所を移している方より親元の保険証、印鑑、下宿先の住所及び在学証明書



▼お誕生

成田 優<sup>ひ</sup>燈<sup>ひ</sup> (脇元) 泰平  
山田 琉蒼 (脇元) 一成

▼ご結婚

萬谷 太<sup>ひ</sup> (脇元)  
森満 恵子 (愛知)  
丁子谷 匠 (相内)  
菊地 梢 (青森)  
佐藤 伸晃 (相内)  
奏 杏奈 (相内)

▼おくやみ

若山 すす<sup>ひ</sup> (十三) 89歳  
工藤 八千<sup>ひ</sup> (相内) 89歳  
奈良 滝雄<sup>ひ</sup> (十三) 78歳  
藤本 恒文<sup>ひ</sup> (十三) 54歳  
中藤 とき<sup>ひ</sup> (磯松) 84歳



あ と が き

いかりとあすなろを图案化した市浦村旗。どのイベントにも必ず登場していました。三月二十日、いつも見慣れているはずの村旗にこの日は目が行きます。いよいよ村旗降納。市浦で生まれ市浦で育った私には万感胸に迫るものがありとどめなく涙がこぼれました。

三月二十八日、雪解けと共に消える市浦村。そして新五所川原市が新しい歴史の第一歩を踏み出します。「広報しゅうら」も最終号となってしまう。四月からは「広報しゅうら」が新市の歴史を刻むことになりました。

二年前、内示を受け目の前が真っ暗になりましたが、初めて自分の原稿が活字になった時の喜びは忘れません。村民の皆様からは、「今度いつ出るの」「あいどる登場のコーナーおもしろいよ」などと励ましのお言葉やエールを送っていただきとても励みになりました。また、平成十五年度県広報コンクールで入選(平成十五年十月号)したのも忘れられない思い出となりました。今後五所川原市役所で広報を担当することになりました。一歩成長した「広報」をお届けしたいと思っております。

広報「しゅうら」のご愛読ありがとうございました。歴代の広報担当者代表してお礼を申し上げます。そしてこれからもよろしくお願いたします。

(佐藤みどり)

《表1》平成16年における地区別の出生数 (単位:人)

相内		太田		桂川		十三		脇元		磯松		全村	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1	3	0	1	0	0	6	2	1	1	2	0	10	7
4		1		0		8		2		2		17	

《表2》過去5年間にける出生数の推移 (単位:人)

平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
15	7	10	10	6	10	14	6	10	7
22		20		16		20		17	

《表3》平成16年における年齢別・性別の死亡状況 (単位:人)

区分 年齢	計	男	女	死 因	割合
0~39	1	1	0	その他1人	9人 (20.5%)
40~49	1	1	0	その他1人	
50~59	3	2	1	悪性新生物3人	
60~64	4	2	2	悪性新生物4人	
65~69	3	2	1	悪性新生物3人	
70~79	9	7	2	悪性新生物3人 肺炎3人 その他3人	35人 (79.5%)
80~89	15	10	5	悪性新生物3人 脳血管疾患4人 心疾患3人 肺炎2人 その他3人	
90~99	8	2	6	悪性新生物1人 心疾患1人 肺炎4人 その他2人	
100~	0	0	0		
合計	44	27	17		44人 (100%)

《表4》過去5年間にける死因別死亡数の推移 (単位:人)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	計
平成12年	悪性新生物 10 27.1%	心疾患 7 18.9%	脳血管疾患 4 10.8%	肺炎 4 10.8%	事故 4 10.8%	その他 8 21.6%				37 100.0%
平成13年	悪性新生物 15 35.7%	心疾患 9 21.4%	肺炎 5 11.9%	腎不全 4 9.5%	脳血管疾患 2 4.8%	事故 2 4.8%	自殺 2 4.8%	老衰 2 4.8%	その他 1 2.3%	42 100.0%
平成14年	悪性新生物 7 25.9%	心疾患 6 22.2%	脳血管疾患 3 11.2%	肺炎 2 7.4%	老衰 2 7.4%	腎不全 1 3.7%	事故 1 3.7%	自殺 1 3.7%	その他 4 14.8%	27 100.0%
平成15年	悪性新生物 14 32.6%	脳血管疾患 7 16.3%	肺炎 6 14.0%	事故 4 9.3%	老衰 4 9.3%	心疾患 2 4.6%	自殺 1 2.3%	その他 5 11.6%		43 100.0%
平成16年	悪性新生物 17 38.6%	その他 10 22.7%	肺炎 9 20.5%	心疾患 4 9.1%	脳血管疾患 4 9.1%					44 100.0%

《表5》平成15年基本健康診査結果報告に見る肥満と糖尿病 (単位:%)

	男				女					
	肥満者の割合		HbA1C異常者		肥満者の割合		HbA1C異常者			
	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合	市町村名	割合		
1	市浦村	47.2	鯉ヶ沢町	15.4	市浦村	47.2	鯉ヶ沢町	15.4		
2	小泊村	45.0	稲垣村	15.1	小泊村	45.0	稲垣村	15.1		
3	岩崎村	34.4	市浦村	14.6	岩崎村	34.4	市浦村	14.6		
4	金木町	34.2	金木町	13.8	金木町	34.2	金木町	13.8		
5	森田村	33.2	中里町	13.2	森田村	33.2	中里町	13.2		
6	車力村	32.9	柏村	12.7	車力村	32.9	柏村	12.7		
7	稲垣村	31.9	車力村	12.6	稲垣村	31.9	車力村	12.6		
8	木造町	31.8	深浦町	11.6	木造町	31.8	深浦町	11.6		
9	中里町	31.0	木造町	10.8	中里町	31.0	木造町	10.8		
10	深浦町	30.5	小泊村	10.6	深浦町	30.5	小泊村	10.6		
11	五所川原市	30.4	五所川原市	10.5	五所川原市	30.4	五所川原市	10.5		
12	鯉ヶ沢町	29.4	鶴田町	9.5	鯉ヶ沢町	29.4	鶴田町	9.5		
13	柏村	25.5	岩崎村	9.1	柏村	25.5	岩崎村	9.1		
14	鶴田町	25.3	森田町	7.3	鶴田町	25.3	森田町	7.3		
参考	15年度基本健康診査結果(管内平均)				11.7	15年度基本健康診査結果(管内平均)				11.7
	13年度県民健康度調査(国民)		31.1		13年度県民健康度調査(国民)		33.1			
	13年度県民健康度調査(国民)		27.8		13年度県民健康度調査(国民)		21.3			



No.176

# 市浦村の健康の指標

平成十六年度も残すところわずかとなりました。そこで、平成十六年の市浦村の健康の指標を次のとおり紹介します。

《表1》は平成十六年における地区別の出生数です。  
《表2》と合わせて見てみると、過去5年間で二十人前後の出生数で推移していることがわかります。  
《表3》は平成十六年における年齢別・性別の死亡状況です。死亡数は全体で見ると、八割近くが六十五歳以上の高齢者で占めています。六十五歳未

満の働き盛りの年代でも二割の死亡があることがわかります。また、性別では男性の死亡数が女性より多く、働き盛りの年代でも同じことが言えます。  
※悪性新生物とはがん、脳血管疾患とは脳梗塞、脳出血など、心疾患とは心不全、心筋梗塞などを言います。

《表4》の過去五年間の死因別死亡数の推移をみると、  
《表5》は平成十五年の基本健康診査の結果から見た五所川原保健所十四市町村における肥満と糖尿病の割合です。市浦村は男女共に十四市町村の中で肥満の割合が最も多く、平成十三年度に実施した県民健康度調査の県民平均三・一%、国民平均二七・一%よりも圧倒的に多いことがわかります。また、糖尿病

の改善、運動の実施、そして毎年欠かさず検診を受診して、村民全体で健康管理をしていきたいと思います。

《表1》は平成十六年における地区別の出生数です。  
《表2》と合わせて見てみると、過去5年間で二十人前後の出生数で推移していることがわかります。  
《表3》は平成十六年における年齢別・性別の死亡状況です。死亡数は全体で見ると、八割近くが六十五歳以上の高齢者で占めています。六十五歳未

満の働き盛りの年代でも二割の死亡があることがわかります。また、性別では男性の死亡数が女性より多く、働き盛りの年代でも同じことが言えます。  
※悪性新生物とはがん、脳血管疾患とは脳梗塞、脳出血など、心疾患とは心不全、心筋梗塞などを言います。

《表4》の過去五年間の死因別死亡数の推移をみると、  
《表5》は平成十五年の基本健康診査の結果から見た五所川原保健所十四市町村における肥満と糖尿病の割合です。市浦村は男女共に十四市町村の中で肥満の割合が最も多く、平成十三年度に実施した県民健康度調査の県民平均三・一%、国民平均二七・一%よりも圧倒的に多いことがわかります。また、糖尿病

の改善、運動の実施、そして毎年欠かさず検診を受診して、村民全体で健康管理をしていきたいと思います。

《表1》は平成十六年における地区別の出生数です。  
《表2》と合わせて見てみると、過去5年間で二十人前後の出生数で推移していることがわかります。  
《表3》は平成十六年における年齢別・性別の死亡状況です。死亡数は全体で見ると、八割近くが六十五歳以上の高齢者で占めています。六十五歳未

満の働き盛りの年代でも二割の死亡があることがわかります。また、性別では男性の死亡数が女性より多く、働き盛りの年代でも同じことが言えます。  
※悪性新生物とはがん、脳血管疾患とは脳梗塞、脳出血など、心疾患とは心不全、心筋梗塞などを言います。

《表4》の過去五年間の死因別死亡数の推移をみると、  
《表5》は平成十五年の基本健康診査の結果から見た五所川原保健所十四市町村における肥満と糖尿病の割合です。市浦村は男女共に十四市町村の中で肥満の割合が最も多く、平成十三年度に実施した県民健康度調査の県民平均三・一%、国民平均二七・一%よりも圧倒的に多いことがわかります。また、糖尿病

の改善、運動の実施、そして毎年欠かさず検診を受診して、村民全体で健康管理をしていきたいと思います。